



平成 28 年 8 月 9 日

各 位

上 場 会 社 名 ユニーグループ・ホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 佐古 則男
(コード番号 8270 東証・名証第 1 部)
問 合 せ 先 責 任 者 取締役専務執行役員 越田 次郎
(TEL 0587-24-8011)

特別損失及び棚卸資産評価損の発生に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 28 年 9 月 1 日に予定している株式会社ファミリーマートとの経営統合を機に、平成 31 年 2 月期までにGMS事業において約 25 店舗、コンビニエンスストア事業において店舗置き換えを含めて約 1,000 店舗の店舗閉鎖等を決議いたしました。また、GMS事業の構造改革に伴う棚卸資産の簿価見直しも決議いたしました。つきましては、平成 29 年 2 月期第 2 四半期連結会計期間（平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日）において、下記の特別損失及び棚卸資産評価損を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 減損損失

当社の子会社であるユニー株式会社、株式会社サークルKサンクス及び株式会社ナガイが本日開催の当社取締役会で閉鎖決議した店舗等及び収益性が低下した店舗等の固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行い、平成 29 年 2 月期第 2 四半期連結会計期間において、それぞれユニー株式会社 460 億円程度、株式会社サークルKサンクス 80 億円程度及び株式会社ナガイ 30 億円程度の減損損失の計上を見込んでおります。

(2) 店舗閉鎖関連損失

当社の子会社であるユニー株式会社が本日開催の当社取締役会で閉鎖決議した店舗に関して、平成 29 年 2 月期第 2 四半期連結会計期間において、90 億円程度の店舗閉鎖関連損失の計上を見込んでおります。但し、本損失につきましては、今後の具体的な交渉により金額が変動する可能性があります。

2. 棚卸資産評価損の計上について

当社の子会社であるユニー株式会社が本日開催の当社取締役会で衣料品・住居関連品に関する今後のGMS事業の構造改革に伴う販売戦略、品揃え計画の変更を決議したことに鑑み、商品の簿価を見直した結果、平成 29 年 2 月期第 2 四半期連結会計期間において、棚卸資産評価損として売上原価に 60 億円程度の計上を見込んでおります。

3. 業績への影響について

当社は、平成 28 年 9 月 1 日（予定）で株式会社ファミリーマートとの合併を予定しており、当期連結業績予想は第 2 四半期連結累計期間までとしております。

なお、上記 1、2 により、現時点におきましては、当第 2 四半期連結会計期間において、特別損失及び棚卸資産評価損の合計で 720 億円程度を計上する見込みですが、親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、現時点での業績予想の算出が困難なため、予想数値の開示を行っておりません。業績予想の開示が可能となった場合には、速やかに開示いたします。

以 上